2018年度（平成30年度）活動報告

Ⅰ．セミナー

テーマ	講師（所属機関）	司会	期日	主催者	共催者
『近代アメリカの公共圏と市民』（東京大学出版会、2017年）合評会	遠藤泰生（東京大） 白井洋子（日本女子大） 藤本龍児（帝京大） 鰐淵秀一（共立女子大）	石川敬史	2018年 4月14日	CPAS 初期アメリカ学会	
“The Founding Dey: Early American Republican Encounters with Islam” “Inventing the Immigration Problem: How My Work Went from Border Politics to Washington Politics”	Bethel Saler （Haverford College） Katherine Benton-Cohen （Georgetown University）	遠藤泰生	2018年 6月9日	CPAS	後援：アメリカ学会 助成：日米友好基金
“Deep Time, Slow Violence, Haunted Lands: Indigenous Performance and Climate Change”	Helen Gilbert （Royal Holloway, University of London／CPAS客員教授）	西崎文子	2018年 7月11日	CPAS	
“Method Reading: Inhabiting George Saunders's Lincoln in the Bardo”	Lucas Thompson （Sydney University）	遠藤泰生	2018年 9月26日	CPAS	
“The United States’ Rival Nations: Exploring the Centuries Old Divides that Explain American Politics Today”／「トランプのアメリカは歴史の必然か」	Colin Woodard （Journalist）	遠藤泰生	2018年 9月26日	CPAS	日本初期 アメリカ学会
“From Triumph to Crisis: An American Tradition”	Jay Sexton （Professor and Kinder Endowed Chair in Constitutional Democracy, The University of Missouri）	西崎文子	2019年 1月15日	CPAS	基盤研究B 「現代アメリカ外交の『視座』形成過程をめぐる複合的研究」 （代表：西崎文子）
ANU-Utokyo Joint Research Seminar “Is Democracy in Crisis?”	Robert Goodin （Australian National University） Commentator: Susumu Cato (The University of Tokyo)	井上　彰	2019年 1月24日	CPAS	基盤研究C 「カタストロフィの分配的正義論」 （代表：井上彰）； 基盤研究B 「現代アメリカ外交の『視座』形成過程をめぐる複合的研究」 （代表：西崎文子）

Ⅱ．シンポジウム等

CPAS公開ワークショップ
「ネットワークで世界を描く」
日時：2018年12月15日（土）　14：00～17：00
場所：東京大学駒場キャンパス10号館301号室
報告：佐藤俊樹（東京大学）
　　「ネットワークと境界性――第3世代システム論からの考察」

鶴見太郎（東京大学）
「自己を面に分解して考える――ロシア・ユダヤ人がロシアを離れるまでの歴史」
申恵媛（東京大学・院）
「「開かれた」地域社会の重層性――エスニックな観光地化する「新大久保」の事例から」
司会：佐藤俊樹（東京大学）
主催：CPAS

III. 研究プロジェクト

・日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究（B）
「現代アメリカ外交の「視座」形成過程をめぐる複合的研究」（代表：西崎文子）
・日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究（C）
「「適合的因果」と統計的因果推論の同型性にもとづく因果分析の再構築」（代表：佐藤俊樹）
・日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究（C）
「19世紀中半のアメリカ合衆国における太平洋像とそこに映し出された合衆国理解の研究」
（代表：遠藤泰生）
・日本学術振興会科学研究費補助金・基盤研究（C）
「北米大陸史枠組み構築のための1812年戦争研究：双方向的把握の試み」
（代表：橋川健竜）

IV. 出版活動

・『アメリカ太平洋研究』第19号（2019年3月）

V. センター所属教員の2018年1月から12月までの研究活動

西崎文子
［その他の執筆］
・アメリカ学会編『アメリカ文化事典』（丸善出版、2018年）編集委員、「アメリカと国際連合」、「世界における親米と反米」を分担執筆。
・書評「イアン・ティレル、ジェイ・セクストン『アメリカ　「帝国」の中の反帝国主義』」『朝日新聞』2018年4月7日。
・書評「ハンス・モーゲンソー著『科学的人間と権力政治』」『朝日新聞』2018年5月5日。
・書評「トレバー・ノア『トレバー・ノア　生まれたことが犯罪？』」『朝日新聞』2018年6月16日。
・書評「海老坂武『戦争文化と愛国心』、ネイトー・トンプソン『文化戦争』」『朝日新聞』2018年5月26日。
・書評「デビッド・リット『24歳の僕が、オバマ大統領のスピーチライターに？！』」『朝日新聞』2018年7月21日。

・書評「ブルンヒルデ・ポムゼル『ゲッベルスと私　ナチ宣伝省秘書の独白』」『朝日新聞』2018年8月18日。
・書評「リチャード・J・エヴァンズ『力の追求　ヨーロッパ史　1815–1914』(上・下)」『朝日新聞』2018年8月25日。
・書評「若尾祐司・小倉桂子編『戦後広島の記録と記憶』(上・下)、根本雅也『ヒロシマ・パラドクス　戦後日本の反核と人道意識』」『朝日新聞』2018年9月15日
・書評「イワン・クラステフ『アフター・ヨーロッパ　ポピュリズムという妖怪にどう向きあうか』」『朝日新聞』2018年10月6日。
・書評「ジェイムズ・Q・ウィットマン『ヒトラーのモデルはアメリカだった』」『朝日新聞』2018年10月20日。
・書評「ジュリー・オオツカ『あのころ、天皇は神だった』」『朝日新聞』2018年11月10日。
・書評「ソニア・ソトマイヨール『私が愛する世界』」『朝日新聞』2018年11月24日。
・書評「オーナ・ハサウェイ、スコット・シャピーロ『逆転の大戦争史』」『朝日新聞』2018年12月15日。
・記事「ひもとく　米朝首脳会談」『朝日新聞』2018年6月23日。

［学会活動等］
・コメント、“The United States and the World in the Nuclear Age,” 日本アメリカ学会第52回年次大会、北九州大学、2018年6月2日。
・講演「アメリカ社会を動かすもの――権力の表と裏」平成29年長野市民教養講座、長野市、長野ホテル犀北館、2018年3月2日。
・講演「アメリカの『今』、を考える――歴史の連続性・非連続性の観点から」グレーター東大塾、東京大学本郷キャンパス伊藤国際学術研究センター、2018年4月18日。
・講演「歴史の中のアメリカ外交――『トランプ外交』の意味を考える」高校生と大学生のための金曜特別講座、東京大学駒場キャンパス、18号館ホール、2018年4月27日。
・講演「『トランプ外交』とは何か――歴史からの問い」島根県立大学総合政策学会第35回特別講演会、島根県立大学浜田キャンパス講堂、2018年11月30日。
・日本学術会議第24期第一部会員

佐藤俊樹
［学術論文］
・「データを計量する　社会を推論する――「新たな」手法が見せる社会科学と社会」『社会学評論』68(3)、2018年、404–423頁。
・「自己産出系のセマンティクス　あるいは沈黙論の新たな試み」若林幹夫・立岩真也・佐藤俊樹(編)『社会が現れるとき』(東京大学出版会、2018年)、361–393頁。
・「機能分化社会のマスメディア」金子勇編著『変動のマクロ社会学』(ミネルヴァ書房、2018年)、133–160頁。
・「社会は現れる　一つの解題として」若林幹夫・立岩真也・佐藤俊樹(編)『社会が現れるとき』(東京大学出版会、2018年)、395–409頁。

・「傷と絆と罪と罰――大人でない子どもたちの、子どもたちによる、子どもたちのために」『ユリイカ』50(2)、2018年、140–143頁。

［その他の執筆］
・「城と主と、おんなとおとこ　書評：森下佳子『おんな城主　直虎』」『UP』548号、2018年、48–55頁。
・「貸し借りが紡ぐ因果の糸　書評：早島大祐『徳政令』」『UP』554号、2018年、36–42頁。
・「書評：太田邦史『「生命多元性原理」入門』」『教養学部報』605号、2018年、2–3頁。

遠藤泰生
［学術論文］
・「反米：あらたな紛争の胎動か、共生の代償か（序）」『ODYSSEUS』第22号、東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻1、2018年、105–120頁。
・「諸刃の剣としての歴史認識――トランプのアメリカを問い直す」『アメリカ太平洋研究』第18号（2018年）、東京大学大学院総合文化研究科アメリカ太平洋地域研究センター、44–52頁。

［その他の執筆］
・アメリカ学会編『アメリカ文化事典』（丸善出版、2018年）における全体編集幹事、第七章「社会思潮」第八章「科学技術」の編集を務め、「海洋」「黒船」「建国神話」を分担執筆。
・コラム「ハバナ、モヒート、カストロ――高橋均先生とご一緒したキューバ調査旅行」『ODYSSEUS』第22号（2018年）、東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻、181–182頁。
・『広辞苑　第七版』（岩波書店）南北アメリカ史に関する既存項目校閲と「バラク・オバマ」「スティーブ・ジョブズ」「準州」「ファヴェーラ」「ベニート・スアレス」「ウゴ・チャベス」ほか新たに19項目を執筆、2018年。
・報告概要「『近代アメリカの公共圏と市民――デモクラシーの政治文化史』――その狙いと成果」『Newsletter』第8号（2018年）、初期アメリカ学会、1–2頁。

［学会活動等］
・コメント、“Activism and American Society,”日本アメリカ学会第52回年次大会、北九州市立大学、2018年6月2日。
・報告「海・ネイション・科学――19世紀の太平洋を考える」科研（環太平洋地域マイノリティ史から問い直すアメリカ史研究／代表：兼子歩）ワークショップ、“海をめぐる知識・言説・移動空間――環太平洋地域史の新展開――”明治大学駿河台キャンパスリバティタワー、2018年12月15日。
・報告「19世紀半ばのアメリカ合衆国と太平洋：マシュー・F・モーリの活動から」科研（西洋近代の海洋世界と「海民」のグローバル循環――北大西洋海域から／代表：田中きく代）研究会、ユーズツー（大阪梅田）、2018年12月29日。

・アメリカ学会理事／幹事
・初期アメリカ学会理事
・アメリカ研究振興会評議員
・International Contributing Editor, *Journal of American History*
・Editorial Advisory Board, *Journal of Australian American Studies*（Sydney U.）

橋川健竜
［その他の執筆］
・書評「和田光弘著『記録と記憶のアメリカ――モノが語る近世』」『アメリカ太平洋研究』第18号（2018年）、151–156頁。
・事典項目「消費主義」アメリカ学会編『アメリカ文化事典』（丸善出版、2018年）、280–281頁。

［学会活動等］
・アメリカ学会英文ジャーナル（*The Japanese Journal of American Studies*）編集委員
・アメリカ学会理事
・初期アメリカ学会理事

寺川隆一郎
なし

佐藤雅哉
［学術論文］
・“Bella Abzug’s Dilemma: The Cold War, Women’s Politics, and the Arab-Israeli Conflict in the 1970s,” *Journal of Women’s History* 30, no. 2 (Summer 2018): 112–135.
・“The American Front of the Globalized Arab-Israeli Conflict: The Politics of Humanitarianism, Peace, Human Rights, and Feminism in the 1970s,” Ph.D. diss., Hitotsubashi University, 2018.

［学会活動等］
・コメント 望戸愛果『「戦争体験」とジェンダー――アメリカ在郷軍人会の第一次世界大戦戦場巡礼を読み解く』（明石書店、2017年）書評会、2018年10月13日、専修大学神田キャンパス。